

# 軟式野球協会

## 歴 史

### ※ 初 期

幕別町における野球の歴史は古く大正の初期に溯ります。大正6年に札幌師範を卒業した新田達道氏は訓導として、幕別尋常高等小学校に赴任し、児童・生徒に当時としては珍しい野球を教えました。これが幕別の始まりであります。昭和3年、止若野球倶楽部が結成され、昭和17年の全国大会に十勝代表として札幌円山球場に駒をすすめました。しかし準決勝で1対2Aで惜敗しました。また、新田ベニヤチームも同時代から優秀な戦績を残しました。昭和21年、復活した第1回オール十勝軟式野球選手権大会（帯広市営球場開場記念）に出場した新田ベニヤチームは、決勝戦で帯広木材倶楽部を2A対1で破って選手権を獲得し、昭和22年に行われた第2回国民体育大会北海道予選会に十勝代表として出場し、決勝戦にて室蘭代表の日綱と対戦し惜敗をしました。このころより、一挙に野球熱が盛んとなり、大衆スポーツとしての野球に対する認識が高まってきました。

### ※ 幕別町軟式野球審判部時代

昭和33年4月幕別町体育連盟が設立されました。これに判い従前より、野球愛好家またはプレーヤーによって試合の審判を行っていたが、審判の公正と試合の運営を円滑にするため、審判員を組織し、昭和34年幕別町野球審判部として発足し体育連盟に加盟しました。発足当時の審判員は17名程度で、部長に二川辰夫氏、事務局長に国枝正義氏の体制で事業の推進にあたりました。これが現在の軟式野球協会の基礎となりました。当時の事業としては、町民野球大会（公区対抗）の審判を主としており、審判技術の練磨と規則・実技の修得に努力し、正しい野球技術の普及に努めました。

昭和42年から昭和46年までは、部長に二川辰夫氏、事務局長は掘井守氏となり、年々盛大になった野球大会は健全な精神と体力を養い親睦を旨とする意味からも大きな原動力になったものに、朝野球大会があります。朝野球大会は町教委、体育連盟の主催で昭和43年に第1回大会が開催されました。当時の参加チームは3チームであり、現在は飛躍的なチーム数になっています。このように年々各大会が多く実施され、試合数も多くなるにつれて、審判部の向上、審判服の整備等の充実を図る必要性が出てきました。昭和47年から昭和51年までは、部長に二川辰夫氏、事務局長に逢坂勝己氏となり、審判員のユニホームの整備については、部の少ない予算の中で、毎年帽子、審判服、靴と、半額の個人負担で整備をしてきました。購入商店への支払いは2～3年の年賦払いで整理するなどの苦労話もありました。また、審判員の技術向上についても帯広市部主催の講習会にも積極的に参加し技術の練磨を図りました。この様な地道な努力を図りながら、審判部が幕別の軟式野球の発展のために努力をし、今日の軟式野球協会の礎となりました。

## 沿 革

昭和51年6月11日町民会館において「幕別町軟式野球協会設立総会」が開催されました。この総会は今までの「野球審判部」を発展的に解消し、幕別町の野球大会の企画・運営を「協会」の手で行おうという機運が高まり、この3ヶ月以前より規約、事業、予算、組織などについて、設立準備委員会が設置され、準備委員長に貝森拓司氏、事務局長に亀谷雅彦氏を選出し、精力的な審議が行われ、この日の設立総会に各チームの代表者、審判員、設立準備委員などが出席し、幕別町軟式野球協会の新しい一歩を踏み出すことになりました。

設立総会では規約の審議、業務の推進、予算案など準備委員会提案事項を原案通り承認され、次いで役員選出が行われ、選考委員会において前審判部長の二川辰夫氏を顧問とし役員が選出されました。

会 長	貝森 拓司		
副 会 長	牛尾 昌平	小川 義男	井上 太郎
理 事 長	亀谷 雅彦		
副理事長	榎本 基		
常任理事	井上 政助(総務)	上田 宣慶(企画)	逢坂 勝己(審判)
	中村 忠行(管理)	長尾 龍衛(会計)	
監 事	三好 政男	牧野 茂敏	

の各氏を選出し満場一致にて決定をみました。

協会が設立され初めて運営した大会が「第9回町民朝野球大会」で6月14日から6月28日まで、25チームが参加し熱戦がくりひろげました。決勝戦は十勝葉山電器が幕別商工青年部を5対2で破り優勝の栄誉を勝ち取りました。また、協会設立を記念して「第1回協会設立記念朝野球大会」を7月15日から7月26日まで29チームが参加し、先の大会結果をもとに、永年の懸案であったクラス別けを実現しこれ以後の大会運営の基礎となった大会でもあります。この大会のクラス別優勝はAクラス幕別役場、Bクラスアカシア西クラブ、Cクラスイーグルスであります。

昭和51年は幕別町開基80周年の記念の年であり協会もこれを祝して「開基80周年記念野球大会」を9月23日から9月26日まで12チームが参加し、Aクラスは春日クラブ、Bクラスは駒畠ストロンガーが優勝しました。また、「第22回町民野球大会」、健康な体力は、すべての幸福の基礎です。野球を通して町民相互の親睦と健康な体力づくりを推進するための目的で、昭和30年に始められた大会を引き継ぎ協会が主催して行う事となり、8月29日、9月5日の2日間にわたって実施されました。この大会は町内の公区にて1チーム編成し、26チームが参加。優勝 札内春日町、準優勝 旭町第4公区、3位 錦町、4位 札内中央第3公区の結果でした。

昭和52年6月10日総会において51年度事業報告、会計監査報告を満場一致で承認されました。第10回町民朝野球大会の抽選会が行われました。試合は6月15日から7月1日まで前年度実績により、ABCクラス別で行われました。優勝はAクラス 幕別役場、Bクラス 極光クラブ、Cクラス 糠内の各チームでありました。この年の道民スポーツ大会にて、井沢政助監督、松島健二郎主将を中心に東部、十勝大会優勝を成しとげることが出来ました。その後、天候にめぐまれず、第23回町民野理大会、第1回オールスター野球大会などが実施出来なくオフシーズンとなり

ました。また、明倫クラブ（井上太郎監督）が町スポーツ教育賞を受賞しました。

昭和53年6月2日、53年度総会において役員改選が行われました。

会 長	貝 森 拓 司		
副 会 長	井 上 太 郎	三 好 政 男	亀 谷 雅 彦
理 事 長	榎 本 基		
副 理 事 長	中 村 忠 行		
常 任 理 事	葛 西 良 夫 (総 務)	橋 本 雅 弘 (企 画)	
	井 沢 政 助 (審 判)	高 橋 和 弘 (管 理)	
	小 川 幸 男 (会 計)		
監 事	斉 藤 栄 一	牧 野 茂 敏	



会 長 見 森 拓 司 氏

の各氏を満場一致にて決定し、53年、54年の協会役員として発足しました。

6月10日幕中グラウンドにて、講師として帯広軟式野球連盟の丸山支部長、中井副理事長を迎え、審判講習会を実施し、審判技師の向上、審判員の底辺の拡大を目的として、基本的審判技術の修得など、47名の審判員とチームよりの参加を得て実施しました。「第11回町民朝野球大会」が6月13日～30日過去最高の35チームが参加して熱戦がくり広げられました。優勝は、Aクラス 商工青年部、Bクラス ツバメ石油でありました。また、7月5日「第3回協会設立記念朝野球大会」の抽選会を行い、ABCクラスに分け34チームの参加で開催、11日から28日まで戦いが進められ、Aクラス ペプシコーラ、Bクラス 太平洋レミコン、Cクラス 小川モータースの各チームが優勝しました。

この年の道民スポーツ大会には、体育連盟の役員の方々のご努力と町理事者の暖かいご理解でユニホームを揃えていただき7月6日浦幌町で東部予選、1回戦池田町を中村政信投手の力投で2対0で破り、決勝戦でも地元浦幌町を1対0と松田勝投手の巧投により破り優勝し十勝大会へ進出しました。7月30日帯広緑ヶ丘球場で十勝大会が行われ、小川幸男監督、金須幸雄主将を中心に、準決勝では菅野日出夫投手の力投で芽室町を破り、決勝戦では音更町を小川幸男監督自らレフトスタンドへの本塁打と中村政信投手の巧投により2対0と破り道民スポーツ大会十勝二連勝を飾る事ができました。

「第23回町民野球大会」は9月3日、24日の両日に亘って行われました。参加は24公区、優勝は、あかしや公区でした。準々決勝であかしや公区の菅野日出夫投手は駒島公区を相手に完全試合を達成しました。9月15日幕別神社の祭典に合わせて「第1回幕別オールスター野球大会」が中央幕別、西幕別、南幕別の3チーム別で開催、3チーム共1勝1敗で得失点差で南幕別が優勝しました。

〈個人表賞選手〉

最優秀選手賞 小川幸男(西)、最優秀投手賞 菅野日出夫(西)、最優秀監督賞 井上太郎(南)

昭和54年5月23日、総会において、2回の朝野球大会の実施につきまして、ブロックリーグとトーナメントを組み合わせた試合方式を決定、1回の大会で1チームが必ず3試合を行う方法を採用するという意味から上位クラスと下位クラスとの入れ替え戦を行うことを決定しました。こ

の総会で45チームが登録されました。

「第22回町民野球大会」は9月2日、9日両日に行われました。22チーム参加、決勝戦は本町公区が新町公区を7対2で破り優勝を飾りました。道民スポーツ大会東部地区予選は決勝戦で池田町に惜敗し3年連続優勝の望みは破れ去ってしまいました。

「第2回全幕別オールスター野球大会」は9月1日町営球場で開催し、西幕別チームが優勝しました。各チームに金・銀・銅メダルが送られました。

最優秀選手賞 中村政信(西)、最優秀投手賞 小川幸男(西)、最優秀監督賞 小川義男(西)  
〔幕別町体連20周年記念、体育連盟表彰式〕

貝森拓司、三好政男、井上太郎、金須 武、金須幸雄、二川辰夫、佐々木正恭、亀谷雅彦、郷司 清、国枝正義

昭和55年5月7日、総会が開催され役員改選が行われました。

会 長	貝森 拓司		
副 会 長	井上 太郎	三好 政男	亀谷 雅彦
理 事 長	中村 忠行		
副理事長	小川 幸男		
常任理事	関 善治(総務)	橋本 雅弘(企画)	小野 典昭(審判)
	中村 進(管理)	小川 義男(会計)	
理 事	横川 覚(総務)	大上 光一(企画)	小笠 邦呆(審判)
	六郎田明正(管理)	松島健二郎(会計)	
監 事	斉藤 栄一	小里 時司	

の各氏を満場一致で決定し、55～56年度の協会役員として発足しました。

55年度は45チームが登録されました。

5月25日、幕中グラウンドにおいて240人参加し技術向上をめざし審判講習会が開催されました。

「第13回町民朝野球大会」、5月27日から6月28日まで45チームが参加し熱戦がくり広げられました。Aクラス 幕別農協、Bクラス 太平洋レミコン、Cクラス キングスター、Dクラス 幕別消防が、それぞれ優勝しました。また、道民スポーツ大会東部予選は豊頃町において開催し本町は1回戦で惜敗しました。「第5回協会設立記念朝野球大会」は7月3日から8月22日まで48チームの参加で熱戦をくり広げられました。優勝はAクラス、ふせやスポーツ、Bクラス 役場、Cクラス 五位、Dクラス ギャートルズでした。」第25回町民野球大会」は18公区の参加で8月24日、9月14日の両日開催し、決勝戦で青葉町が五位公区を9対2で破り優勝しました。

幕別町軟式野球協会設立5周年を記念して「第3回全幕別オールスター野球大会」が9月14日、総選手67名(3チーム)によって開催、結果、優勝 中央幕別、準優勝 西幕別、3位 南幕別  
最優秀選手賞 桑井建志(中)、最優秀投手賞 中沢弘志(中)、最優秀監督賞 中村 勇(中)  
55年度体育連盟、スポーツ功労賞に、斉藤栄一監事が受賞しました。

昭和56年5月8日、総会を開催。48チームが登録しました。5月24日、町営球場において審判講習会を41名の出席で実施しました。「第14回町民朝野球大会」、5月27日から6月28日まで48チームの参加で開催。Aクラス ツバメ石油、Bクラス 五位、Cクラス 葵クラブ、Dクラス 札

内竹葉の各チームが優勝を飾りました。

「道民スポーツ野球大会東部地区予選」が、7月12日幕別町が当番町として町営球場にて開催されました。晴天の9時30分開会式、役員選手入場のあと、貝森拓司大会長挨拶、福田省市幕別教育長祝辞、三好政男審判長注意、三好和也（幕別チーム）選手の宣誓があり、4町の熱戦がくり広げられました。結果、1回戦、池田町を3対0で破り、決勝戦、浦幌町を3対0で破り優勝しました。更に十勝大会においても優勝を飾りました。

「第6回協会設立記念朝野球大会」は、7月14日から8月8日まで、41チームの参加により開催されました。Aクラス イーグルス、Bクラス 葵クラブ、Cクラス ギャートルズ、Dクラス 若草町が優勝に輝きました。

「第4回全幕別オールスター野球大会」、9月15日、町営球場において開催されました。

この大会の特色は、初のクラス別対抗戦、BCDクラス「Aをたたけ」（日頃のうっぷんを爆発して）Aクラスのプライド、強さが見どころ、総選手数100名（48チーム）。結果、ロッテファイターズ（A）。

1回戦 ヤンキース(C) 8対1 ドジャース 最優秀選手賞 松島健二郎(ロ)  
準決勝 ビクトリー(B) 1対0 ジャイアンツ(A) 最優秀投手賞 石田 幸男(ロ)  
準決勝 ロッテファイターズ(A) 7対5 ビクトリー(B) 最優秀監督賞 井沢 政助(ロ)

「第26回町民野球大会」は9月6日、町営、葉山、幕小、札内河川敷グラウンドの4会場、12公区の参加で開催、春日公区が、決勝で緑町第4公区を7対0で破り優勝しました。

56年度 幕別スポーツ賞 金須 武、スポーツ奨励賞 第13回道民スポーツ夏季大会幕別軟式野球チーム、体育連盟スポーツ功労賞 堀井 守、榎本 基の各氏各チームが受賞しました。

昭和57年5月7日、総会が開催され役員の改選が行われました。

会 長	貝森 拓司		
副 会 長	井上 太郎	三好 政男	亀谷 雅彦
理 事 長	小野 典昭		
副理事長	金須 幸雄		
常任理事	吉田 照男(総務)	橋本 雅弘(企画)	小川 幸男(審判)
	中村 進(管理)	平野 利夫(会計)	
理 事	小川 義男(総務)	大上 光一(企画)	斉藤久三男(審判)
	小笠 邦呆(管理)	松島健二郎(会計)	
監 事	小里 時司	中村 忠行	

の各氏が満場一致で決定し、57年～58年度の役員として発足しました。

57年度の登録チーム数は協会設立以来の最高、51チームでした。

「第15回町民朝野球大会」は5月26日より7月2日まで過去最高の51チーム参加によって熱戦がくり広げられました。Aクラス 札内梓石、Bクラス 小川モーターズ、Cクラス 札内竹葉、Bクラス ペプシコーラの各チームが優勝に輝きました。

「道民スポーツ大会東部地区予選」は、7月4日、池田町において開催されました。

「第7回協会設立記念朝野球大会」は、7月15日から8月7日まで、50チームの参加で開催されました。Aクラス 小川モータース、Bクラス 笹島産業、Cクラス 若草町、Dクラス 太平洋レミコンの各チームが優勝を飾りました。「第27回町民野球大会」は9月5日、3会場で12チームの参加で開催されました。

「第5回全幕別オールスター野球大会」は、9月15日、町営・幕中グラウンドの2会場で昨年と同じ、クラス別4チームのトーナメント方式で開催されました。優勝 ジャイアンツ(A) 準優勝 ロッテファイターズ(A) 最優秀選手賞 詫間光博(ジ) 最優秀投手賞 前川厚司(ジ) 最優秀監督賞 小笠邦保(ジ)

57年度、幕別スポーツ賞 三好政男、体育連盟スポーツ功労賞 小川義男の両副会長が受賞しました。

昭和58年5月13日、総会を開催、45チームが登録しました。

「第16回町民朝野球大会」は、5月25日から8月4日まで、クラス別45チームによって熱戦がくり広げられました。優勝、Aクラス 幕別商工青年部、Bクラス 札内竹葉、Cクラス 札内農協、Dクラス 信組幕別の各チームでした。

「第8回協会設立記念朝野球大会」は、8月17日から9月19日まで、クラス別41チームによって開催されました。優勝 Aクラス 札内粹石砂利、Bクラス 幕別イーグルス、Cクラス 坂本石油、Dクラス レッドイーグルスの各チームでした。「第28回町民野球大会」は、8月28日、11公区の参加で熱戦がくり広げられました。決勝戦で中央町2公区が3対3の同点旭町4公区をジャンケンで勝ち優勝しました。

58年度、連育連盟スポーツ功労賞、橋本雅弘理事が受賞しました。

昭和59年5月17日、総会が開催され役員の改選が行われました。

会 長	貝森 拓司			
副 会 長	井上 太郎	三好 政男	亀谷 雅彦	小川 義男
理 事 長	小野 典昭			
副理事長	金須 幸雄			
常任理事	吉田 照男(総務)	橋本 雅弘(企画)	小川 幸男(審判)	
	中村 進(管理)	平野 利夫(会計)		
理 事	森脇 登(総務)	大上 光一(企画)	斉藤久三男(審判)	
	小笠 邦保(管理)	松島健二郎(会計)		
監 事	小里 時司	中村 忠行		
事務局長	斉藤久三男			
事務局次長	平野 利夫			

の各氏が満場一致で決定し、59年～60年度の役員として発足しました。

(59年度より副会長4人制、事務局制を導入しました。)

「第17回町民朝野球大会」の開会式を北海道軟式野球連盟帯広支部、幕別町教育委員会、十勝毎日新聞の後援、丸山支部長の出席をいただいて盛大に開催され、42チームが登録であります。

5月28日から6月8日まで41チームの参加で熱戦がくり広げられました。特に本大会より試合の結果等が十勝毎日新聞に記載されるようになりました。また、54年度より実施されました、ブ

ロックリーグ、トーナメント方式を決定しました。決勝戦は小川モータースが7対3でギャートルズを破り優勝を飾りました。このトーナメント方式のため初戦で敗れるチームの17チームが、1試合で終るという事で実力を発揮出来なかったチームだけの大会「第1回協会長杯振興朝野球大会」が、6月20日より6月29日まで開催されました。名誉の第1回大会の優勝は幕別イーグルスでした。

「第9回協会設立記念朝野球大会」が7月23日より8月2日まで、35チームの参加で開催されました。

優勝は札内粹石砂利チームだった。

昭和60年5月15日、総会を開催、28チームが登録しました。

「第18回町民朝野球大会」は、5月28日から6月5日まで、37チームの参加で開催されました。

優勝は小川モータースチームだった。

「第2回協会長杯振興朝野球大会」は6月27日から7月6日まで、19チームの参加で熱戦がくり広げられました。優勝はギャートルズチームだった。

「第10回協会設立記念朝野球大会」は8月9日から8月16日まで、28チームの参加で開催されました。優勝は商工会チーム。

昭和61年5月12日、総会が開催され役員の改選が行われました。

会 長	貝 森 拓 司			
副 会 長	井 上 太 郎	三 好 政 男	小 川 義 男	吉 田 照 男
理 事 長	小 野 典 昭			
副 理 事 長	金 須 幸 雄			
常 任 理 事	大 上 光 一(総務)	橋 本 雅 弘(企画)	小 川 幸 男(審判)	
	高 橋 和 浩(管理)	窪 田 準(会計)		
理 事	森 脇 登(総務)	関 戸 親 文(企画)	小 笠 邦 呆(管理)	
	松 島 健 二 郎(会計)			
事 務 局 長	平 野 利 夫			
事 務 局 次 長	窪 田 準			

の各氏が満場一致で決定し、61年～62年度の役員として発足しました。

「第19回町民朝野球大会」は5月9日から6月8日まで、30チームの参加で開催されました。

優勝は駒島クラブ。「第3回協会長杯振興朝野球大会」は、6月23日から6月30日まで、15チームの参加で開催。優勝は山崎石油。「第11回協会設立記念朝野球大会」は8月22日から8月31日まで、20チームの参加で開催。優勝は小川モータース。

開町90周年を記念して「幕別町開基90周年記念朝野球大会」を10月5日より10月12日まで開催されました。参加9チームで熱戦がくり広げられました。決勝で小川モータースが消防を破り優勝を飾りました。

## 現 況

62年度の総会が5月12日行われ、61年度事業・会計・監査各報告があり報告通り承認されました。次いで62年度の事業計画・予算が提案通り可決されました。通いて「第20回町民朝野球大会」

の監督会議にうつり抽選会を行いました。中央幕別地区11チーム、札内地区14チーム、南幕別地区5チームの昨年同数の30チームの参加で、5月19日から6月3日にわたって熱戦がくり広げられました。

決勝では幕別商工会青年部が小川モータースを破り優勝を飾りました。

「第4回協会長杯振興朝野球大会」は6月8日から6月20日まで、15チームの参加で開催され優勝は幕別農協、準優勝、石油荷役で終了しました。続いて「第12回協会設立記念朝野球大会」の監督会議が6月15日開催、24チームの間で抽選し、6月29日より開始7月16日まで熱戦がくり広げられました。決勝戦で札内竹葉寿司が全進札内をふりきり優勝を飾り全日程が終了致しました。また、昨年の反省点として、早い時期に協会主催の朝野球を終了することができました。これも関係者、選手、審判部員の特段のご協力を、いただいた結果だと思えます。

## 展 望

幕別町軟式野球協会の登録チームは、30チーム、450余名が参加し、審判員は28名を数えるに至りました。登録されているチームは純農村チーム、職場チーム、クラブチームなど構成は多彩であります。町内の小中学校の野球が盛んで、十勝大会での優勝も常に顔を出している状況であり全道大会をめざして頑張っています協会もこれら少年野球を支援していかなければなりません。

幕別は地域的に利便で各種の十勝大会が開催される様になりましたし、地域の野球大会、協会主催の大会など、シーズンを通してグラウンドでは野球が行われる状況です。

しかし、町営グラウンドは1ヶ所しかなく大部分は小中高校や企業のグラウンドを借用しているのが現状です。各学校のグラウンドの整備や、特に札内地区に公式町営球場建設、南幕別に町営球場の造成が望まれます。一方協会に登録されている審判員は当初は50余名であったが現在28名にすぎず朝野球大会の現状からも、審判員の絶対数が少ないという事がいえます。協会では61年度より公式審判員資格試験を受験し現在7名の資格者がおります。今後審判講習会やルール説明会など開催して、審判員の養成を計り底辺を拡大するとともに技術的にも理論的にもすぐれた執権をもつ審判員や指導者の養成に重点を置くことにより更に充実した体育の使命を遂行することの出来る野球協会の発展するものと確信する。



## 現役員体制

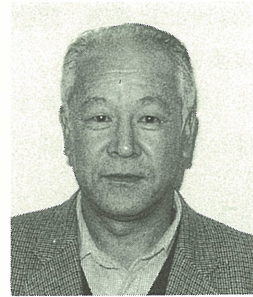
会 長	貝 森 拓 司
副 会 長	井 上 太 郎
”	三 好 政 雄
”	小 川 義 男
”	吉 田 照 男
理 事 長	小 野 典 昭
副 理 事 長	金 須 幸 男



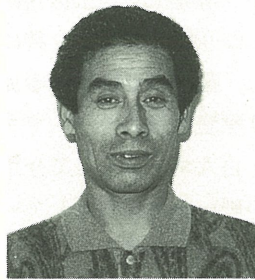
会 長 貝森拓司



副会長 井上太郎



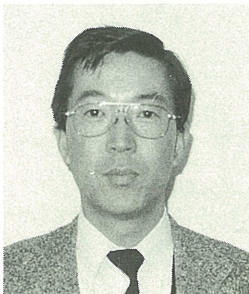
副会長 三好政男



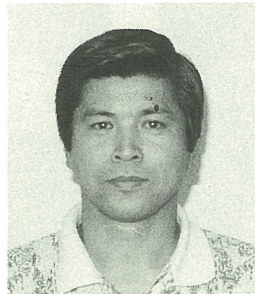
副会長 小川義男



副会長 吉田照男



理事長 小野典昭



副理事長 金須幸男